

鹿児島空港のあり方の検討に係る論点整理（案）

資料1

H30.11.19 交通政策課

テーマ	第1回検討委員会及び第1回ワーキンググループにおける主な意見	検討の方向性	主な論点
(1) 新たな航空需要と空港間競争	<p>国内他空港と比較して利用者の少ない国際線を伸ばす方向で検討すべき。</p> <p>LCC, 特に国際線LCCが空港利用者増加において重要なポイント。</p> <p>LCCのみならず, FSCの発着回数も増やし, 富裕層の誘客を図るべき。</p> <p>プライベートジェット対応を充実させる必要。</p> <p>コンセッションは経営の一体化がポイントであり, 空港の活性化あるいは利用者増加に直接資するわけではない。</p> <p>財源問題を含め, 理想論ばかりでなく実現可能性の視点からも, 空港のあり方を検討すべき。</p> <p>空港の離発着回数枠については十分余裕があるため, 既存滑走路において便数増加に対応可能。</p> <p>【WG】需要予測は人数だけでなく, FSCとLCCの利用者の違いにも着目すべき。</p> <p>【WG】国内の航空需要については, LCCによる潜在需要の掘り起こし余地が大きい。また, インバウンド需要についても, 政府目標との整合性を図るべき。</p> <p>【WG】他空港との差別化の観点から, 近距離路線の国際路線ではなく, 長距離路線の国際線就航に向けた取組を強化すべき。</p> <p>【WG】空港間の競争とは, 営業努力や運用上の利便性等に対するエアラインを含めた利用者から見た魅力度の競争であるため, 民間委託に議論を収斂すべきではない。</p> <p>【WG】LCC向け施設については, 利用者目線だけでなく, 空港を利用するエアライン側の運用要件と効率性という観点から, 施設や設備のスペックを検討すべき。</p> <p>【WG】他空港では愛称設定している空港もあるが, 愛称は空港の競争力には繋がらないため, コストのかからない他の方策で活性化を図るべき。</p>	<p>●LCCやビジネスジェット, リージョナルジェットなども含めた航空需要を踏まえた需要予測に基づき, ターゲット顧客や誘致戦略, 受入体制等を検討する。</p>	<p>①国際線のターゲット設定と目標数</p> <p>②LCCによる潜在需要の発掘可能性</p> <p>③新たな航空需要に対応した施設・設備のあり方</p>
(2) 観光と空港	<p>訪日外国人の誘客強化のため, 国際線ターミナルビルの新設を検討すべき。</p> <p>沖縄を多数訪れている外国人観光客を鹿児島へと誘致する流れを強化する観点から, 沖縄との間の路線拡充を図るべき。</p> <p>空港の魅力度向上だけでは不十分で, ディスティネーションとしての鹿児島の魅力度向上が不可欠。</p> <p>【WG】鹿児島空港の需要は, 観光施策の取組次第で大きく伸びる。</p> <p>【WG】空港が発展すれば, 地域が発展するのではなく, 地域の活力があるから, 空港が使われるという関係にあり, 地域の活力増強には観光が重要。</p>	<p>●本県の主要産業である観光産業発展の観点から, 県の観光戦略（目標）と整合性のとれた航空路線の拡充や受入体制の整備等を検討する。</p>	<p>④県の観光戦略や施策に係る検討・調整</p> <p>⑤観光地との二次交通アクセス充実</p> <p>⑥SIT（テーマ性, 趣味性の高い観光）対応</p>

テーマ	第1回検討委員会及び第1回ワーキンググループにおける主な意見	検討の方向性	主な論点
(3)南九州の拠点空港	<p>今後の経済成長が見込まれるアジアをターゲットに、本土最南端という地理的優位性を活かしながら路線誘致に取り組み、運用時間の延長や国内線乗継ぎの利便性向上などを重視すべき。</p> <p>インバウンド観光客が多数利用する福岡空港との連携を強化するため、二次交通のあり方を検討すべき。</p> <p>【WG】鹿児島空港を起点として、観光客がどこに行き、何を楽しむのか。県境を超えて南九州全体の航空需要を創出する土台を作る決意が必要。</p> <p>【WG】熊本・宮崎両空港との間で路線補完や地上交通の連携を図ることにより、南九州全体での発展を検討すべき。</p>	<p>●地理的優位性を活かした本土最南端のゲートウェイ機能を強化するため、南九州全体の航空需要を見据えながら、空港間の競争・連携関係を検討する。</p>	<p>⑦南九州の拠点空港としての役割及び機能</p> <p>⑧熊本・宮崎空港との連携可能性</p>
(4)離島のハブ空港	<p>国際線の拡充と合わせて、離島便を充実させ、インバウンド観光客を離島へ運ぶ仕組みを考えるべき。</p> <p>離島のハブ空港でもあるため、訪日外国人をターゲットとして、離島観光の魅力を強化し、離島便で儲ける仕組みを考えるべき。</p> <p>小型機用のボーディングブリッジの設置を検討すべき。</p> <p>【WG】離島路線は観光促進上重要であるとともに、生活路線としても重要なので、離島空港の課題も併せて検討すべき。</p> <p>【WG】離島のハブ空港としては、鹿児島空港だけでなく、奄美空港も併せて活用する方法を検討すべき。</p>	<p>●鹿児島空港と離島空港とを結ぶ航空ネットワークの維持・充実や、小型航空機に対応した利用者利便向上のための設備の充実等を検討する。</p>	<p>⑨相乗効果を発揮できる鹿児島空港と離島空港との関係性</p> <p>⑩離島航空路線との接続性改善に向けた路線ネットワークや施設配置等</p>
(5)魅力ある空港ターミナルビル	<p>国内線と国際線の一体化や接続性改善を検討すべき。</p> <p>高齢者が利用しやすい空港のあり方を検討すべき。</p> <p>利用者の購買意欲を高める店舗づくりを図るべき。</p> <p>国際線ターミナルビルの売り場面積の拡充や、全体の充実強化を図るべき。</p> <p>乗り継ぎ時間の過ごし方や観光客等へのPRのため、温泉施設を整備すべき。</p> <p>駐車場の混雑緩和(立体駐車場化)を検討すべき。</p> <p>「空の玄関口」として、インパクトのある特産品等のPR・販売機能を検討すべき。</p> <p>ターミナルビルの運営時間延長を検討すべき。</p> <p>国際線の売店・免税店の拡充を図るとともに、特産品の販売を強化すべき。</p> <p>【WG】「儲ける空港」ではなく、「楽しめる空港」を目指すべき。</p> <p>【WG】新しい施設や設備に要する費用は、基本的には航空会社あるいは利用者に転嫁されるため、費用回収のあり方も視野に入れるべき。</p> <p>【WG】国は、事業計画の認可要件として、バリアフリーを要件化しているため、新規就航を促す手段として、空港のバリアフリー化は整備を急ぐべき。</p>	<p>●国内外の航空旅客の施設滞在欲求に応え、また、航空旅客以外の来港者等のニーズに対応する施設等について、妥当な受益者負担の観点も踏まえて検討する。</p>	<p>⑪ターミナルビルが追求すべき機能及びその仕様</p> <p>⑫内際一体型ターミナルへの転換による航空会社や関係機関等への影響</p> <p>⑬娯楽施設を含めた空港施設における受益者負担のあり方</p>

テーマ	第1回検討委員会及び第1回ワーキンググループにおける主な意見	検討の方向性	主な論点
(6) 安心・安全・スマートな空港管理	<p>ターミナルビルだけでなく、駐車場等を含めて、全体として効率的な旅客動線を検討すべき。</p> <p>保安検査場の増設や混雑しない旅客動線を検討すべき。</p> <p>ソフト、ハードともに行列等のストレスを軽減する観点から、滞留時間の短縮や広いスペースを確保すべき。</p> <p>地震対策だけでなく、火山対策も視野に入れ、他国にも存在しない先進性をもった空港を目指すべき。</p> <p>【WG】労働力人口の減少を見据えて、鹿児島中央駅バスターミナルにおける自動チェックイン機設置などのIT化を図る必要がある。</p> <p>【WG】ビジネスジェットの検討に際しては、CIQの意見も反映しながら、定期便旅客とのビジネスジェット客の動線を工夫すべき。</p> <p>【WG】施設面だけでなく、「安心・安全・スマート」という観点が、鹿児島空港の強調すべき魅力になる可能性がある。</p> <p>【WG】2020年に向けて労働力の枯渇が心配される中で、鹿児島空港でどれだけ省力化を進めて、運用要件を満たすことができるかを、大きな注目点とすべき。</p> <p>【WG】火山灰による航空機や運航への影響、火山噴火に対する災害対応などを調査・検討すべき。</p>	<p>●労働力人口の減少を見据えて、IoT・ロボット・人工知能などの先端技術駆使した空港運営により、エアラインの運用要件を満たし、効率的な旅客動線等を図ることを検討するとともに、災害時の救援・復興機能のあり方を検討する。</p>	<p>⑭労働力人口の減少による空港運用への影響</p> <p>⑮航空産業における技術革新の進展やSociety5.0の進展による運用要件の効率化可能性</p> <p>⑯空港における災害対策</p>
(7) 地域経済と拠点性	<p>航空貨物によって、鹿児島県産品を海外や首都圏への輸送するため、基幹線や国際線の機材大型化に向けた取組を推進すべき。</p> <p>ターミナルビルだけでなく、二次交通等を含め空港全体の魅力強化を考えるべき。</p> <p>二次交通の利便性向上等、空港の発展が地域の発展に繋がる方向性で検討してほしい。</p> <p>【WG】二次交通手段として、鉄道の検討も含めるべき。</p> <p>【WG】空港問題の解決に際しては、空港周辺地域の住民の理解・協力が不可欠なので、住民が気軽に楽しめる空港という視点も重要。</p> <p>【WG】輸入貨物の機材の大型化が進んでおり、滑走路長が不足がちなので、大型貨物機への対応という観点から、滑走路延伸が必要。</p> <p>【WG】リムジンバスは需要が伸び続けているが、運転手確保が最重要課題。</p>	<p>●鹿児島空港の交通結節環境を活かし、乗換利便性や案内機能の向上、物流機能の充実、更なる交通ネットワークの充実を探ることを検討する。</p>	<p>⑰利用者利便性と持続可能な二次交通のあり方</p> <p>⑱航空貨物の動向と空港機能</p>